

コスタリカ平和の歩み 映画監督が説く

軍隊を持たず非武装・一日、生田キャンパスで中立を貫いてきた中米コスタリカ。市民ら約70人が参加した。人文科学研究所の第1回公開講演会が、6月 大学教授で社会学者のマイケル・ドレイリンク(Michael Dreiling)氏。ドキュメンタリー映画『コスタリカの奇跡』の奇跡の歩み、平和国家の「つくり方」(米国・コスタリカ合同、2016年)の共編者、元大統領や学同監督で、

本学の中村友保名誉教授と親交があり、講演が実現した。講演会(参加者は同映画の短縮版(57分)を鑑賞した。コスタリカは1948年、軍隊を廃止して軍事予算をゼロにし、教育と医療を無償にし、環境保全に力を入れる福祉国家を実現させた。

「戦後大きな経済成長を遂げ、教育水準の高さや持続可能な社会環境の構築、先端技術などさまざまな面で世界から注目されている。また、国際的な場面で平和のリーダーとして活動してきた。その姿勢を大切にしたい」と呼びかけた。



さらに日本について「戦後大きな経済成長を遂げ、教育水準の高さや持続可能な社会環境の構築、先端技術などさまざまな面で世界から注目されている。また、国際的な場面で平和のリーダーとして活動してきた。その姿勢を大切にしたい」と呼びかけた。

第1回 人文科学研究所公開講演会 第2回

故矢野建一 前学長の研究業績を振り返る

人文科学研究所第2回(部教授)の研究業績を振り返る。6月15日、生田キャンパスで開催された。宗教史研究の第一人者であった故矢野建一氏(前専修大学長・元文学)

3氏が壇上。矢野氏の研究への姿勢や論文の特徴を語り、約100人が熱心に耳を傾けた。冒頭、佐々木重人学長があいさつを行った。矢野氏は

専門分野に対する視野が広く、古代地域史・仏教史・民衆史、さらには古代東アジア史も領域に入れた。2004年、「日本」国号を刻んだ遺唐留學生・井真成の墓誌を中国で最初に発見したひとりでもあった。

16年4月に急逝。昨年11月に、遺稿論文集『日本古代の宗教と社会』がゆかりの人々の手で刊行され、改めて注目されている。

矢野氏と30年来の交流があった荒木敏夫名誉教授は「彼の研究は綿密な実証に基づいていた。着



講演する荒木名誉教授

想が豊かで、古代の祭祀・宗教を社会全体の動きの中で捉えようとした。そこに独自性がある」と指摘した。

次に西宮秀紀氏(愛知教育大学名誉教授)が法律令国家祭祀研究について、続いて矢野氏から指導を受けてきた田中禎昭文学部准教授が古代村落史研究について解説した。田中准教授は「矢野氏の研究は豊かな構想力で多面的に論理を展開している。研究の『総論』に至る前に急逝されたこととが惜しまれる」と結んだ。

法学部140回連続講演会

震災と報道の役割



法学部が開講する「140回連続講演会」が13日を迎えた。今回は毎日新聞社の瀬尾忠義氏(平3法)が7月2日、神田キャンパスで「震災と報道機関」と題して講演した。東日本大震災(2011年)の取材を通して報道の役割と課題を語った。写真。瀬尾氏は仙台支局次長として、宮城県内の被災地取材の陣頭指揮にあたった。報道に際して悩みも多し、その一つとして一枚の写真をめぐる「議論」を明かした。4階建てほどのビルに津波が押し寄せた瞬間を撮影したものの、屋上で十数人が鉄柵にしがみつき、あるいは互いに肩を組んで流されないよう踏ん張っている生々しい写真だった。瀬尾氏は「懸命に生きようとしている人々を写し、津波の高さを知る貴重な写真でもある。インパクトもあったが、被災地の人々は写真を見てどう思うだろうか」と指摘。社内の議論を経て写真は公開されなかった。新聞離れが進む中、瀬尾氏は「新聞報道は話題にならばいい、というも

商・高橋裕教授がJSD優秀発表賞



商学部・高橋裕教授がJSD優秀発表賞を受賞した。専門はビジネス・政策のコンピュータ・シミュレーションが日本システム・ダイナミクス学会(JSD)主催のJSDカンファレンス2019で、優秀発表賞を受賞した。発表タイトルは「JSDモデルにおける適切な時間単位に関する一考察」。時間と共に変化する企業活動とアウトカムを研究するためのシステム・ダイナミクス(SD)を利用するにあたって、モデリングとシミュレーションにおける時間の単位の設定について考察した。

2015年から続いた同講演会は7月19日(金)が最終回。140回目は池本卯典氏(昭29法、日本獣生命科学大学名誉学長、自治医科大学名誉教授)が「専修大学と私」と題して講演した。19時、神田キャンパス541教室。

19年度科研費 新規採択一覧

2019年度の科学研究費助成事業(科研費)に新規採択された専修大学の研究は基盤研究B・C、若手研究の計24件。

研究種目	氏名	所属	職名	研究課題名
基盤研究B	土屋昌明	経済学部	教授	道教の洞天思想における聖地と巡礼の調査研究およびその東アジア思想文化史への影響
	中原孝信	商学部	准教授	味の知覚に対する相互作用のモデル化と感性を考慮した推薦システムの構築
	金井雅之	人間科学部	教授	アジア型ウェルビーイングの社会的メカニズムを解明する国際共同研究
	小林昭裕	経済学部	教授	明治・大正期、北海道の都市公園の開設・改修・公園設計に対する社会文化史的考察
	妹尾哲志	法学部	教授	シュミット政権期の独米関係に関する総合的研究
基盤研究C	大西楠・テア	法学部	准教授	外国人労働力受け入れの法理論—社会統合法制を中心として
	間嶋 崇	経営学部	教授	過剰な情報セキュリティ対策が生じるメカニズムの組織論的探究
	櫻井文子	経営学部	准教授	在外ドイツ系知識人と公共圏の科学—明治期東京における東洋文化研究協会を例に
	奥瀬喜之	商学部	教授	視線動向データを踏まえた消費者の価格知覚に関する研究
	鹿住倫世	商学部	教授	女性の起業におけるやり甲斐、生き甲斐、働き甲斐と政策的支援のあり方に関する研究
	西居 豪	商学部	教授	戦略的業績評価システムにおける因果的な指標間関係の複雑性に関する研究
	植村八潮	文学部	教授	学校図書館を中心とした雑誌活用教育の実態・可能性に関する実証的研究
	末廣 幹	文学部	教授	近代イギリスのコメディ・オブ・マナーズの発展と都市空間の変貌の相関関係の研究
	中垣恒太郎	文学部	教授	「放浪者」像の比較文学—「アメリカ」物語の文化政治学
	安藤 映	ネットワーク情報学部	准教授	高次元多面体体積の効率的計算可能性を幾何双対性から検討する
	小田切健太	ネットワーク情報学部	准教授	リアルタイムイメージングから構築するがん細胞動態の高精度予測モデル
	大久保街亜	人間科学部	教授	裏切りの隠蔽と検出における無意識的過程
	小杉考司	人間科学部	教授	ベース推論と情報圧縮から広がる認知モデルの展開
	広瀬裕子	人間科学部	教授	自律的教育経営を支援する教育困難ケース支援に関する教育行政学的研究
若手研究	鈴木将覚	経済学部	教授	法人税の課税ベースに関する研究
	柏木 悠	商学部	講師	歩行パラメーターと足底圧分布データの無次元量による標準歩行評価システムの開発
	孫 維 維	商学部	助教	中国におけるビジネスエコシステムの形成と消費者行動分析—小売業実証分析を中心に
	土屋翔一	ネットワーク情報学部	准教授	fullerene graphについての研究
	石川健太	人間科学部	非常勤講師	社交不安における感情隠蔽：偽りの表情と向社会的な評価との関連

知の発信



商学部准教授 谷守 正行

AI(人工知能)の管理会計での可能性と限界を見るのが今回の研究です。財務会計ではAIが導入されていますが、管理会計ではまだ研究が進んでいません。そもそも財務会計とは、決算などいわば過去の成績表。対して管理会計は戦略を立てて実行する、将来志向のものです。将棋や囲碁での「活躍」に表れているように、AIは「次の最良の一手」を導き出します。これは管理会計そのものといえます。管理会計には企業理念や経営哲学などが作用します。そのため科研申請当初は、AIの適用は難しいだろうと予測していましたが、ところがAIの進化は速く、1年間研究を進めるうちに、条件をつけられれば可能なのではないかと考えています。AIがリアル

AIが導く管理会計の「次の一手」

タイムにビッグデータを取り込むことで、迅速な未来予測が可能になり、効果的な手を打つことができます。ただ、なぜそうなったかというプロセスが不明なため、最終的には人間の意思決定を必要とするでしょう。AIに仕事を取られるという説がありますが、AIを導入することで、仕事が効率化され、もっと自由な判断ができるようになると思えばいかがでしょうか。人間にしかできないことはたくさんあるのですから。AIを人間のパートナーとして使っていく可能性を探りたいと思います。今後、実験機を完成させ、まずは日商簿記の意思決定問題を解けるようにします。その後企業で実証研究を行う計画です。大学で情報研究していた経験を活かし、AIのプログラミングも自分で行っています。並行して「金融機関の管理会計」や「サブスクリプション」(一定期間内のサービス利用無制限モデル)についても研究しています。ゼミではサブスクやGAFAG(グーグル、アマゾン、フェイスブック、アップル)のビジネスモデルの研究に、学生が興味をもって取り組んでいます。(たにもり・まさゆき)九州大学工学部卒業。本学大学院経営学研究所後期課程修了。博士(経営学)。大手銀行で管理会計を担当。著書に『地域金融機関の経営・収益管理』など。